

ひと ひと
男と女のパートナーシップ創造講座開催

男女共同参画社会の実現に向けた意識づくりのために、6月から7月にかけて、市主催の「男と女のパートナーシップ創造講座」が、花巻、大迫、石鳥谷、東和の4地域で開催され、のべ129人の方々が受講しました。

回	開催日・会場	テーマ	講師
1	6/10 花巻	男の井戸端会議 ～お父さんのための料理教室	齊藤洋美さん (花巻市食生活改善推進員協議会長)
2	6/19 石鳥谷	男女共同参画で築く イキイキ農村生活	吉野英岐さん (岩手県立大学総合政策学部教授)
3	6/29 大迫	見つめなおしてみませんか 家庭、地域の「当たり前」	新妻二男さん (岩手大学教育学部助教授)
4	7/11 東和	ジェンダーへの気づき ～女らしさ 男らしさ から 自分らしさへ	平賀圭子さん (もりおか女性センター長)
5	7/21 花巻	見えますか?セカンドライフ 夫婦で、地域で、新たな人生	浅野富美枝さん (宮城学院女子大学社会学部助教授)

第4講座「ジェンダーへの気づき」では、5～6人ずつのグループに分かれ、それぞれが感じる「男らしさ」「女らしさ」を書き出し、グループごとに発表する作業が行われました。

各グループから出された「男らしさ」「女らしさ」

リーダーシップ	優しい	おくゆかしい
たくましい	強い	細やかな配慮
男は仕事	泣くな	家は家庭
大黒柱	後継者	など
男らしさ	女らしさ	など

これらを見た参加者からは、「男性は常に責任を持って判断しなければならないからかわいそう」「男性が中心で、女性は周りのことをやれという感じ」「ちょっと古い感じがする」などの感想が出されたほか、「男だってたまには泣きたくなるときがある」という男性からの発言もありました。

続いて、自分たちがイメージした「男らしさ」「女らしさ」に、自分は実際に当てはまっているのか、また、当てはまらないことで辛い思いをしたことがないかについて話し合いました。

参加者はこれらのグループワークをとおして、自分たちの身のまわりには、生まれ持った性差とは違う、「男は仕事、女は家庭」のようにあとからつくられた性差(ジェンダー)が多く存在し、人からそれを押し付けられたときに生きにくさを感じることを学びました。

発表の中で、「女性も能力を活かして社会で活躍することはとてもいいと思う。でも自分はやっぱり『女らしさ』を大切にしたいと思っている。」という意見が出されました。平賀講師は「男女共同参画は『女らしさ』を否定しているわけではない。性別によって単純に役割を分けてしまうこと(性別役割分業)が問題」と指摘し、「ジェンダーはあとからつくられたもので、おかしいなと思ったら変えることができる。生きにくいと感じたら、まず自分が行動して変えていくことが大切。相手の考え方、生き方を尊重しつつ、自分の居心地のいい状態を保っていくことが『自分らしく』生きることにつながるのでは」と結びました。



みんなで考え みんなですめる

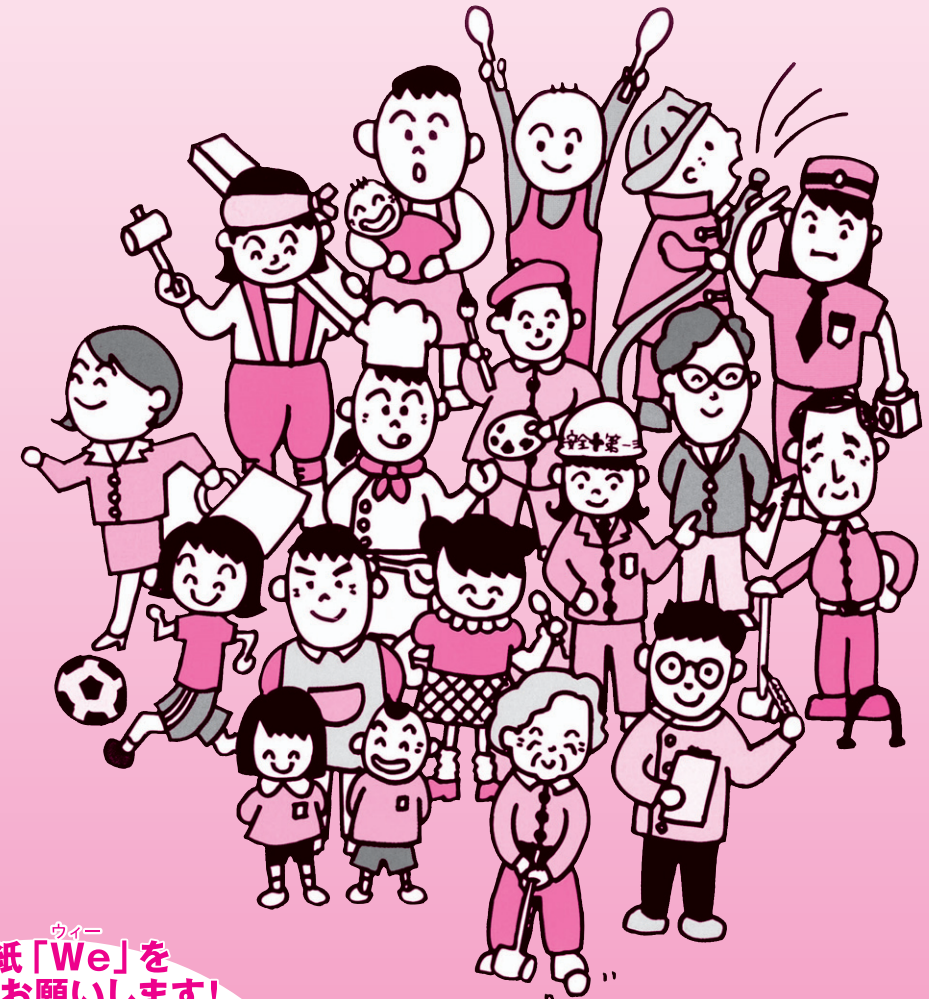


男女共同参画社会の実現に向けて

— 特集 —

おらほのパートナーシップ

～素敵な人 素敵な関係～



ウイー
情報紙「We」を
よろしくお願ひします!

花巻市では、誰もが性別にとらわれることなく、自分らしく生きることのできる男女共同参画社会の実現に向け、新市の発足と同時に「花巻市男女共同参画推進条例」を制定しています。

「We」では、私たちみんなで男女共同参画について考え、理解し、すすめていくため、男女共同参画に関する情報や、市の取り組みについてお伝えしていきます。

We(ウイー)は英語で「私たち」という意味

男女共同参画社会の実現に向けて「私たちみんなで考え、みんなですすめていきたい」

そんな願いを込めて「We」と名づけました。

お知らせ

平成18年度
花巻市男女共同参画推進フォーラム

ひと ひと
男と女が多様な個性を認め合い、生き生きと暮らすことのできる社会の実現を目指し、男女共同参画推進フォーラムを開催します。どうぞご参加ください。

- と き 平成18年11月25日(土) 午後1時開会
- と ころ 花巻市文化会館(若葉町3丁目16-22)
- 内 容
 - ☆ 講演 「『わたし』を生きる ……それぞれが自分色に輝くとき」
 - 講師 落合 恵子 さん(作家・東京家政大学特任教授)
 - ☆ 市民による寸劇上演 「男と女の人生劇場(仮)」
 - ☆ 分科会



●We(ウイー)への意見・感想などをお寄せください。発行 花巻市政策企画部男女共同参画・交流課

編集 男女共同参画情報誌編集委員

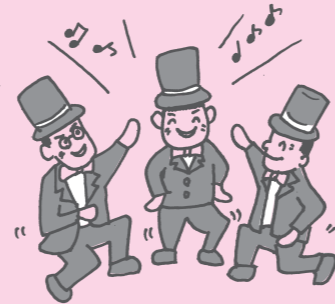
イラスト 大越 佳代子さん

〒025-8601 花巻市花城町9番30号
TEL / 0198-24-2111(内線420)
FAX / 0198-22-6995
E-mail / danjo@city.hanamaki.iwate.jp
H P / http://www.city.hanamaki.iwate.jp/shisei/



‘おやじダンサーズ’で男女共同参画

浅沼 信吉さん(団体職員)
浅沼 恵美子さん(介護士)
(大迫町外川目)



お家の事はどうされていますか。

信吉さん あまり男とか女とかにこだわらず、できる方がやるといった感じですが、最近、家事はほとんど妻にまかせきりで、休日に洗濯するくらいですね。

恵美子さん 夫は勤務先が遠くなったので、普段は家事をする時間がないんです。でも、以前、私に夜勤があった時は、夫が子どもの弁当作りからすべてやっていたんですよ。

ご夫婦で大切にしていることはありますか。

恵美子さん 家族揃って朝食を食べること、子どもたちの前でお互いの悪口を言わないということです。

信吉さん それと、お互いに思ったことは溜め込まないで、ちゃんと相手に伝えることかな。

地域の行事にはお二人とも参加されているそうですね。

信吉さん はい。うちの地区は男女共同参画、結構やっているといますよ。実は4年前、女性部から声が

かかったのをきっかけに「岩脇おやじダンサーズ」を結成して、公民館行事などで踊っているんです。もちろん、そういう行事のときは準備や後片付け、反省会も男女が一緒になってやっているんですよ。

恵美子さん おやじダンサーズは、2~3回練習するだけで不揃いなんですけれど、アンコールが出るほど人気があって、おひねりも飛ぶんですよ。毎日練習している女性部としてはちょっと複雑なんですけど…(笑)。

おらほのパートナーシップ

花巻市は、「男女が対等なパートナーとして、生き生きと暮らすことができる活力あるまち」を築くため、男女共同参画を推進しています。創刊号の「We」では、素敵なパートナーシップを築いている方々をご紹介します。

家事の分担はどうしていますか？

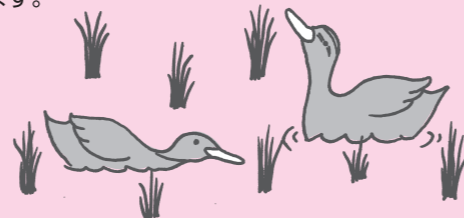
敦さん 「家事は彼女の仕事」と分けているつもりはありません。

励子さん 時間のないときは、農作業でも家事でも、慣れている方がやります。

お互いがパートナーで良かった点を教えてください。

励子さん 話し合えることですね。「私はこう思う」と言うと、彼が自分の考えを言う。それについて考える。そうやってお互いの感性を磨きあえているのだと思います。

敦さん 自分ひとりでは気がつかないところ、人との出会いなどを、彼女が自分にも投げかけてくれていると思います。



夫婦別姓で12年

柳谷 励子さん
入江 敦さん
(農園経営・東和町小友)

お二人は夫婦別姓を選択されたんですね。

励子さん ええ。あるとき同窓会名簿を見て、女性の旧姓表示に「どうして女性ばかり?!」と愕然としました。自分は『私』という個人を大切にしたいと思い、結婚するとき「自分の名前そのままがいい」と彼に言いました。

敦さん 「励子さんがやりたかったらいいよ」と答えると、「私だけの問題じゃないでしょ!」と怒られました。

励子さん 夫婦別姓は、自分の本来の名前を使う良さがありますね。でも、自己紹介などで、理解してもらえかな、とドキドキすることもあります。

敦さん 彼女は名前を変えなかったことで対外的にストレスを感じることもある。その大変さに寄り添いたいと思います。本来、「家に嫁ぐ」のではなく、「誰と結婚するか」が重要なんですよ。

夫婦で育児も家事も仕事も



田中 弘子さん
田中 哲明さん
(ともに会社員・上根子)

家事・育児を分担されているそうですね。

弘子さん 結婚したときは、「夫には台所で洗い物はさせません」と言っていました。

哲明さん とは言っても、共働きで3人の子どもが生まれると、自然にお互いの出来ることをやるようになりましたね。同じホテルに勤めているので、相手の大変さが見えますしね。

弘子さん 今は、朝食は夫、夕食は私が作る人が多いですね。

哲明さん その他にも何でもやりますよ。特にトイレには思い入れがあるんです。女4人に男1人でしょ。唯一ひとりになれる場所なので、書斎感覚で掃除してるんです(笑)。

弘子さん 末の娘の保育園の送り迎え

は、時間が合う方がやっています。子どものことで

仕事を休まなければならないときに、「仕事も家

庭も」という会社の方針で休むことができ、助かっ

ています。



夫婦円満の秘訣は？

弘子さん 素直な気持ちで頼んだり、引き受けたりして、「自分がやらなきゃ」と背負い込まないことです。

哲明さん 側にも相手のことが解らないこともあるので、お互いに思いを言葉にして伝えるってことかな。

楽しく産直やっています

大村 眞喜子さん(産直代表・石鳥谷町八幡)



大村さん(向かって左側)と仲間の皆さん

産直を始めたいきさつをおしえてください。

子育てが一段落して、何かやりたいなあと始めて花や野菜作りが楽しくなり、無人販売所を開いたのがきっかけです。その後、産直を始めようかどうか迷っているときに、「やれないことないんじゃない?」と、夫がプラス思考で背中を押してくれました。何事においてもそんな感じですね。夫は出勤前にその日に出す野菜を収穫してくれるんですよ。

産直をやってきて良かったと思うことは何ですか？

まず、喜びをわかちあえる仲間ができたことです。それに、自分たちが作った野菜で周囲の人が元気になっていくことがとても嬉しいんです。ほとんど儲けはないんですけどね(笑)。

今後の夢は？

将来は‘移動産直’みたいなものができるといいなあと考えています。あとは…石鳥谷図書館での読み聞かせボランティアも続けていきたいですね。

